

ICT ニュース 2021/12 月号

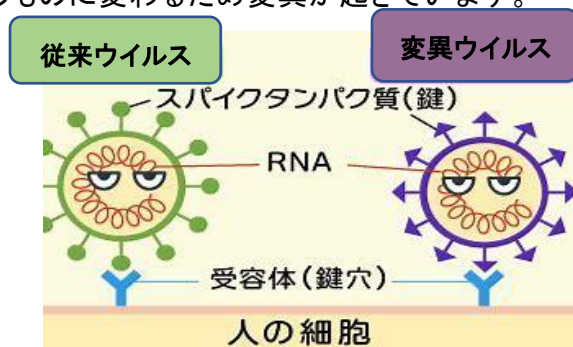
2021/12/15 発行 ICT/感染管理委員会

新型コロナウイルスの変異ウイルスである「オミクロン株」に対する警戒感が日増しに高まっています。デルタ株以降、“大物”の変異株はあまり出てきませんでした。このオミクロン株はデルタ株に代わって拡大している地域もあり、久しぶりの“大物”になるかもしれないと言われています。国内はやっと感染状況が落ち着き、2回接種済ワクチン接種率 80%近くに達成したところでした。変異ウイルスとワクチンのまさに闘ごっこであり、まだまだ油断大敵というところです。



● オミクロン株が“大物”と言われる理由

ヒトの細胞に感染するときの足がかりになる「スパイクタンパク質（ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質）」に起きている変異が、従来とは比べものにならないほど多いことです。スパイクタンパク質は、いくつものアミノ酸が連なって構成されていますが、そのアミノ酸が別のものになるため変異が起きている。オミクロン株では30カ所以上のアミノ酸が変異しており、これまで指定されたどの変異株と比べても明らかに数が多いということです。さらに、細胞に侵入するとき、「フーリン」と呼ばれるタンパク質分解酵素がスパイクタンパク質を切断するプロセスがあるのですが、フーリンによって切断される部位の近くにも変異が起きていることから感染しやすいと言われています。重症化、ワクチン効果に関しては研究・分析中です。



● ファイザーワクチンの効果

メッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンであり、SARS-CoV-2 のスパイクタンパク質の設計図となる mRNA を脂質の膜に包んだ製剤です。本剤接種により mRNA がヒトの細胞内に取り込まれると、この mRNA を基に細胞内でウイルスのスパイクタンパク質が産生され、スパイクタンパク質に対する中和抗体産生及び細胞性免疫応答が誘導されることで、SARS-CoV-2 による感染症の予防ができると考えられています。ファイザー製ワクチンを2回接種した場合のオミクロン株に対する効果は、従来のウイルスに比べると大幅に減少したものの、3回接種すると効果は2回目のおよそ25倍になり、重症化も防止できたという実験報告がされました。(12/9)

● コロナワクチン3回目接種の情報

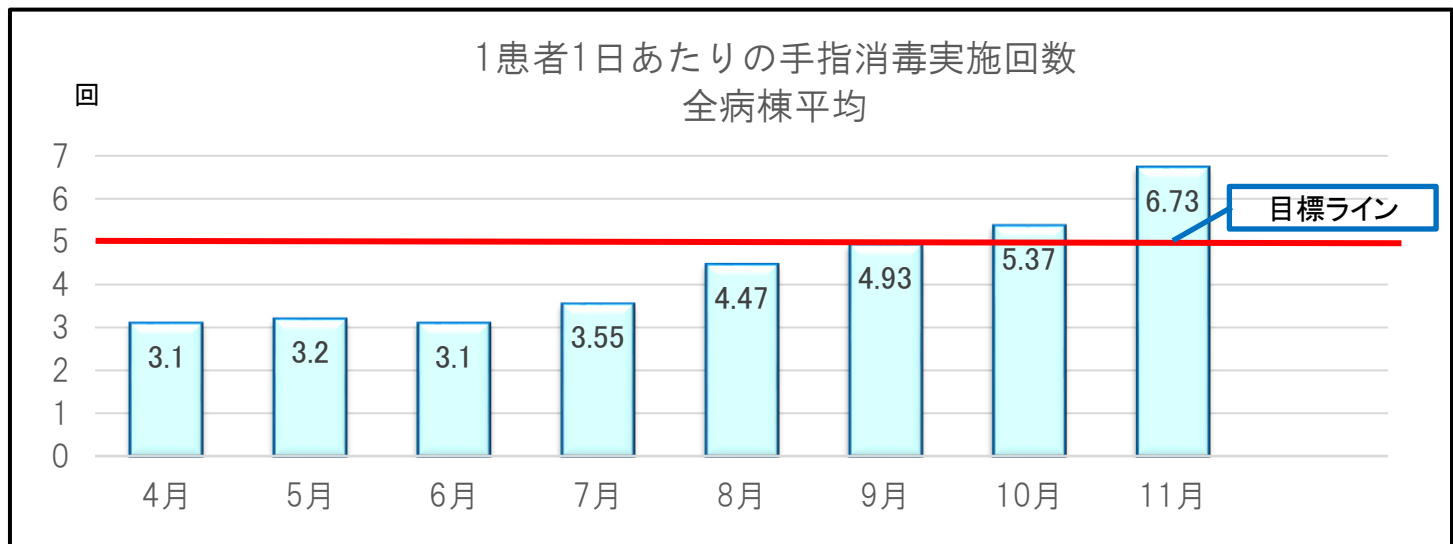
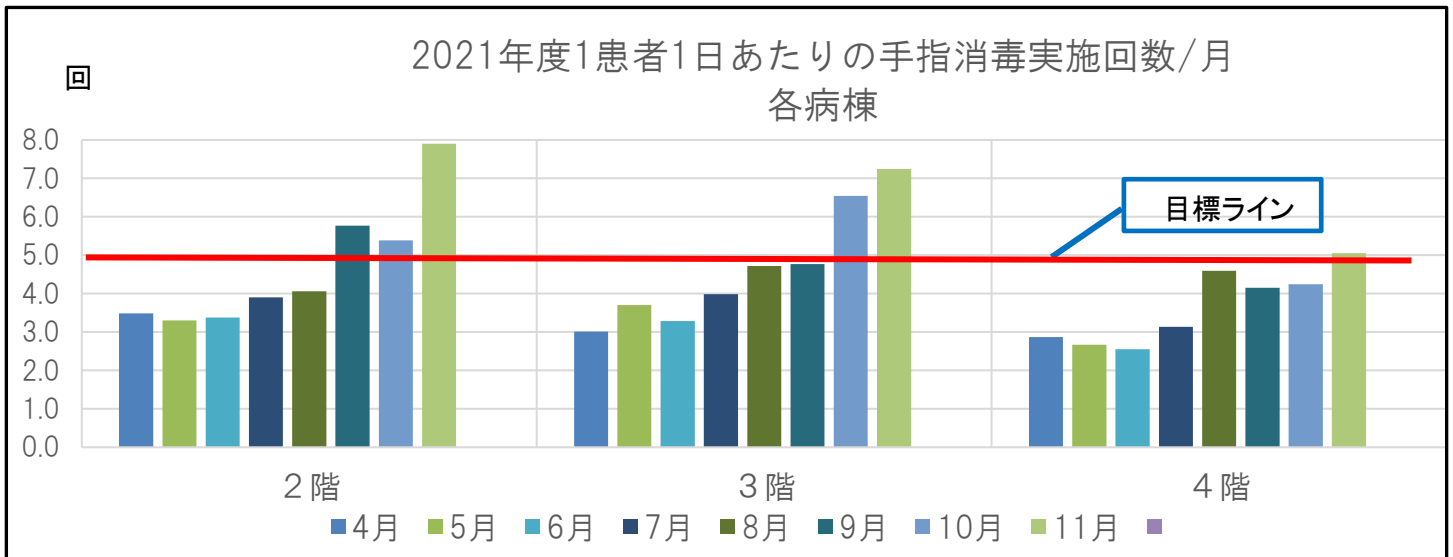
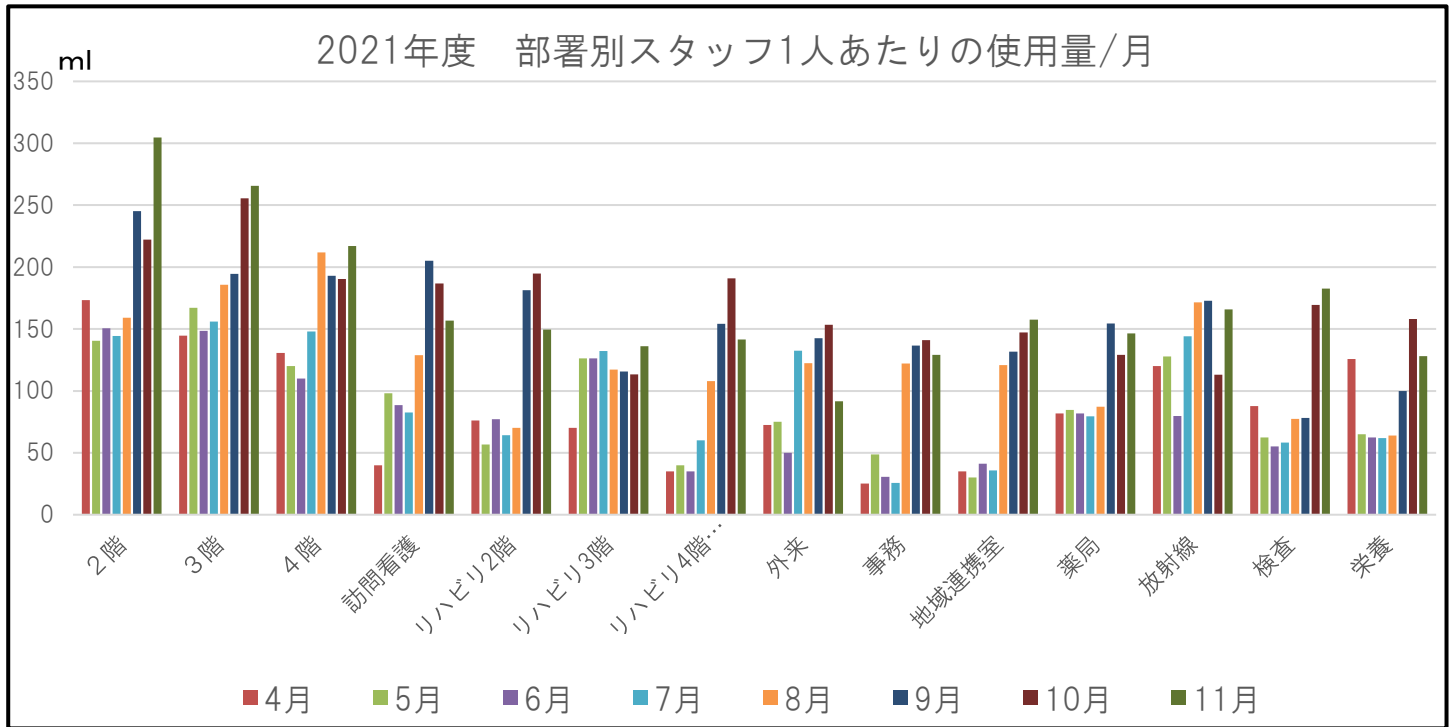
- ・当院職員は2月9日から2月18日を予定しており、2回目接種完了日から8か月以上経過した18歳以上の方を対象。居住市町が発行する「接種券一体型予診票」が必要となります。
- ・2回目接種完了後に住民登録を変更した方は、早急に転居後市町村へ変更手続きをお願いします。
- ・患者や職員家族、職域接種の方は2月10日から毎週木・金曜日に行います。
- ・今回はネット公開して市の協力医療機関として対応します。

● 12月6日から面会禁止を面会制限に緩和しました

予約制で平日の13時から16時、ご家族2名まで(小学生以下不可)約20分間、オンライン面会と併用、1階で行います。重症患者さんには、個室での面会を時間制限なく許可します。面会時は、患者さまの身だしなみをして、時間遵守で行えるように配慮をお願いします。



2021 年度アルコール手指消毒剤使用量報告



★目標ライン到達しました！使用量が減少している部署は原因を検討しましょう